

# Finance & Accounting

## 財務・会計

クラウンアーツ・ビジネススクール



## まえがき

「ファイナンシャルリテラシー(Financial Literacy)」という言葉がありますが、直訳すると「お金に関する読み書き能力」、つまり「お金」に関して理解し、適切な判断と行動ができるようになるためのスキルと知識を指す言葉であります。この資本主義社会で経済的成功を収めるには、当然ファイナンシャルリテラシーが高くなければなりません。義務教育を受けて大学を卒業するまでの間に、ファイナンシャルリテラシーを身につけるための「お金の教育」を受けることはほとんどありません。「お金」のことを知らずに社会へ出ていくわけです。

会社経営において「お金」は血液であり、ここで学ぶ「財務・会計」は、そのお金を管理し、増やすための強力な武器となります。財務・会計、またそれに伴う税務（詳しくは「税務」のテキスト・授業で扱います）を学ぶことで、会社経営におけるファイナンシャルリテラシーを高めていきます。

財務・会計・税務に合わせて、金融や経済に関する基礎知識や「お金」を稼ぐことに長けている人はどのような思考を持っているのかという「お金のマインド」も学んでいきます。会社経営及び自身の資産構築を成功させていくためにも、非常に大事なことを学んでいきます。

### 《ゴール》

- ・資産の意味を理解し、自身の収入・労働形態を選択する力がある。
- ・貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)が読めて、自分で基本的なものが作成できる。
- ・経理を自分の力で一通り管理できる力がある。  
※大規模な組織でなければ、経理は、大枠を把握しシンプルな流れを考えれば、Excel一つ、社長ひとりで時間をかけずにできるものです。
- ・小切手、手形、様々な金融に関する知識を元に、銀行からお金を借りる力がある。
- ・為替レートの意味が分かり、為替差益、為替差損を理解できる力がある。
- ・保険の仕組みを理解し、正しい活用ができる力がある。
- ・年金の力を理解し、将来利益を最大化させる力がある。
- ・金融商品を理解し、儲かる商品とそのリスクを判断する力がある。

# 目次

## 第1章 お金の基礎知識

- 1-1 お金とは
- 1-2 資本主義の仕組み
- 1-3 資産と負債の違い
- 1-4 資産の種類
- 1-5 ESBI
- 1-6 セブンポケッツ

## 第2章 金融の基礎知識

- 2-1 金融とは
- 2-2 銀行の仕組み
- 2-3 日本銀行の役割
- 2-4 為替についての基礎知識
- 2-5 保険についての基礎知識
- 2-6 年金についての基礎知識
- 2-7 小切手の基礎知識
- 2-8 手形の基礎知識

## 第3章 財務諸表

- 3-1 財務諸表の重要性
- 3-2 損益計算書 (P/L)
- 3-3 貸借対照表 (B/S)
- 3-4 キャッシュフロー計算書 (C/S)

## 第4章 財務分析

- 4-1 財務分析とは
- 4-2 収益性
- 4-3 成長性
- 4-4 安全性
- 4-5 効率性
- 4-6 生産性

## 第5章 資金調達

□5-1 融資と出資

□5-2 出資による調達

□5-3 個人借入

□5-4 融資による調達

□5-5 補助金・助成金

# 第1章 お金の基礎知識

## 1-1 お金とは

### 〈お金は価値の交換手段〉

文明社会において、人間は一人で生きていくことができません。人はそれぞれ社会において、役割を持って生産活動を行います。農業を営み食料を生産する人もいれば、その食料を調理して食事にするシェフがいて、それをお客さんのところまで運ぶウェイトレスさんがいたり、鉄を作る人、そしてその鉄を便利な車や機械にする人、医師として人々の病気を治す人もいたりします。

高い生活水準を保つためには、「私はこれやるから、あなたはそれをやって」というように、**各人が専門分野に特化して効率的な生産活動を行う分業体制が必要になる**ということです。こうした分業体制が発達した現代社会で生きていく上で、物やサービスを交換し合う必要が出てくるわけで、そうするとなんらかの形で「価値の交換」をしなくてははいけません。

かつては、物々交換が行われていました。しかし、例えば炊飯器が欲しい八百屋さんは、炊飯器を野菜と交換してくれる電気屋さんを探して交渉しなくてはならず、多大な労力がかかります。物々交換という、モノの価値が数値化されない仕組みは非常に不便で限界が出てきました。

そこで、高度に発達した文明社会においては、**すべてのモノ・サービスの価値を数値化して「お金」に換算できるという暗黙のルールを作り、「お金」によって価値交換が行われるようになった**わけです。

重要なのは、「お金」は元々物々交換の手間を省くために生まれた手段で、本質はモノ・サービスの交換であるということ、つまり、**自分が他人にモノやサービスをもって価値を提供することができなければ、他人からモノ・サービスを受けることはできない**ということです。



### 〈お金を稼ぐことは人々に貢献すること〉

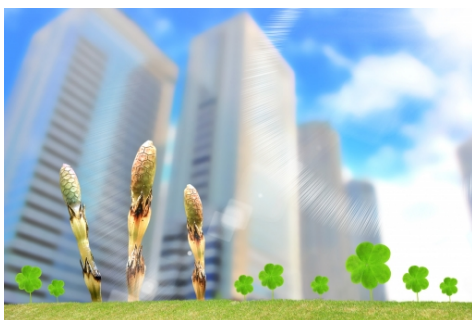
では、「お金を稼ぐ」とはどういうことなのでしょう。「お金」は何らかの価値を数値化したものですから、「お金を稼ぐ」ということはつまり、「価値を集める」と言い換えることができます。「お金」の本質は物々交換ですから、**お金という価値を集める（稼ぐ）**ということは、**それだけ人々に価値を提供し、その見返りとしてその人たちから価値（お金）をいただくことだ**と言えます。

人々に価値を提供するという事は、人々の問題を解決してあげたり、不足を埋めてあげたり、喜ばせてあげる事です。そうして、人々から感謝されることで、その対価として「お金」をいただくことができるのです。ですので、**お金をたくさん稼いだ人は、それだけ人々に多くの価値を提供してきた**と言えます。

そして、**お金は人についてきます**。お金は天から降ってくるわけではなく、人からいただくものです。あなたにお金をくれる人はあなたに感謝をしていたり信頼を置いていたりするためお金をくれるわけです。

よく、お金の価値は人々からの信頼や感謝で成り立っていることを忘れ、お金を稼ぐことが目的になって生きている人がいますが、経済や社会の状況が大きく変わるなど、いざという時には誰も助けてくれずに足元を救われます。現金や株券、不動産も永続的な価値を生み出してくれる保証はありません。「お金さえあれば…」と言っている人も多いですが、**お金がないことを言い訳に何もできないと言っている人間は、お金があっても何もできない人間です**。多くの成功者が、お金がないところから富を築いているわけで、お金がなくても知恵を絞り挑戦を続ければ富を築くことができます。

あなたが多くの人々から信頼され感謝される人間であれば、たとえ窮地に陥ったとしても必ず誰かが助けになってくれて、お金を再び生み出すことができるようになります。**社会・人々に貢献し、感謝され、信頼されていくことが、お金を稼ぐことにつながっている**ということを忘れないようにしましょう。



## 〈お金持ちになるメリット〉

よく、「普通に家庭を持つことができ、お金は最低限あれば私は幸せです」ということを話す人に出会うことがある、あなたもそのうちの一人かもしれません。また、「お金持ちは何か悪いことをしている」、「金稼ぎは悪だ」という風潮も少なからずあるのではないのでしょうか。

果たしてお金持ちになることは良いことなのでしょうか。そして、お金持ちになることは、幸せなのでしょうか。

「お金で幸せは買えない」というのもよく聞く言葉ではありますが、お金を持っていない人にとっては、慰めにはなるでしょう。しかし、お金がなかったために、問題が解決しなかったり、大切なものを失ったり諦めたり、不幸福感を味わった人も多いはず。自分にとって、不幸福感を感じないぐらいのお金を持つことは大切です。また、**お金で買える幸せ、買えない幸せの区別も正確にしておくといいでしょう。**この2つがわからないがゆえに、多くの人が不幸になっているからです。

お金があれば、それだけ選択肢が増える、できることが増えるという魅力があります。選択肢が豊かになり、さらに多くの人々、社会へ貢献をすることができます。与える側の人間になることで、より多くの感謝や信頼を受け、物理的にも精神的にもますます豊かになっていきます。

当然、お金を稼ぐためには、並大抵ならぬ努力や苦労、情熱が必要ですが、その過程こそが楽しく、**頑張れること自体に喜びを覚えることができる**、そういう人間性を備えた人は多くのことを成し遂げ、社会へ偉大なる貢献をし、自ずとお金持ちになっていくわけです。

お金を持つと、その使い方は様々な選択肢がありますが、さらなる人々や社会への貢献のために使えばそれは正義です。しかし、あまりにも私利私欲にまみれた暴虐な使い方をすると、それはお金の悪い使い方として映ってしまうのではないのでしょうか。**お金を稼ぐことはいいことです。しかし、お金の使い方は洗練されていかなければいけません。**その心を忘れなければ、世界に多いなる貢献をする立派な成功者になれるでしょう。



## ◆成功者のお金に対するマインド

### ①投資家 ロバート・キヨサキ

お金は力である。より多くのお金を持っていれば、それだけ多くの選択肢が与えられるからだ。

### ②石油王 ジョン・ロックフェラー

10セントを大切にしないから、10セントで雇われてしまうのです。

### ③英国元首相 マーガレット・サッチャー

お金持ちを貧乏にしても、貧乏な人はお金持ちになりません。

### ④アップル創業者 スティーブ・ジョブズ

「お金が目当て」で会社を始め成功させた人を、私は今まで見たことがない。

### ⑤フォードモーター創業者 ヘンリー・フォード

年寄り「若い時には貯金をしろ」と言うが、それは間違っている。最後の一銭まで貯めようなどと考えたらいけない。自分に投資しなさい。私は40歳になるまで、1ドルたりとも貯金をしたことがない。

### ⑥マイクロソフト創業者 ビル・ゲイツ

いまでもお金そのものには興味がない。仕事と莫大な富と、どちらを選ぶと聞かれたら、仕事を選ぶ。銀行の口座にある巨万の富よりも、何千人という才能あるチームを率いるスリルの方が断然面白いからね。

## ポイント

- お金はあくまでも価値の交換手段である。
- 社会、人々に貢献したことの対価としてお金をいただく。
- お金は力で、お金持ちになれば選択肢が増える。



## 1-2 資本主義の仕組み

現在の、世界経済はほとんどすべてが資本主義の仕組みのもと回っています。高校までで資本主義がどういうものなのか学んできたかと思いますが、ここでもう一度経済の大枠を成している資本主義の仕組みを理解しておきましょう。

資本とは、「お金」のことです。100円、200円という規模ではなく、事業が行えるぐらいのお金のことを指します。「私有財産を認める」とはつまり、「資本」を自由に持てる状態のことを意味しています。

資本主義経済とは、生産手段を持つ資本家が、生産手段を持たない労働者を雇い（労働力を買）、それを上回る価値がある商品を生産して利潤を得るという経済構造です。その生産活動は利潤追求（人より豊かになりたい！）を原動力とする市場メカニズム（需給関係のバランスにより価格が決まり取引が成立する仕組み）によって営まれます。

要は、お金持ちが、そのお金（資本）を使って、必要な材料（労働力を含む）や設備を買ってきて、事業を行いより多くのお金を作る、という仕組みであるということです。工場を作るなど大きな投資が必要になると、銀行から利子付きでお金を借りてきて事業で利潤が生まれたらそこから返済をします。銀行はその金利で儲かります。

お金持ちは投資を行い、ますます富んでいき、お金の調達先である銀行などの金融機関も儲かります。一方、労働者は蓄財し投資活動を行うようにならない限り、ずっと労働力提供による対価を貰うだけでなかなか富んでいきません。

お金持ちはどんどんお金持ちになり、貧乏人はどんどん貧乏になる、それが資本主義の構造上の特徴であり、金持ちは余剰資本を蓄財し、増える貧乏人は物が買えなくなり、消費が減ることによりお金の循環が停滞すると、いずれ限界が来て破綻します。それが恐慌です。

資本主義経済において、得た利潤を次の投資に回していかなければ、経済が停滞します。過度な貯蓄は経済活動を停滞させる原因になります。そのため、日本でもいわゆるタンス預金を引き出そうと政府が必死になっているわけですね。

### 〈市場メカニズム〉

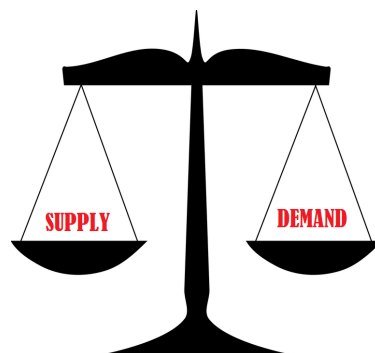
市場メカニズム（市場原理）とは、各自が自分の有利になるように自由な取引を行えば（競争原理）、社会の欲求に比べて少ないものは価格が上がって儲かるようになるので生産が増え、欲求に比べて多いものは価格が下がって儲からなくなるので生産が減り、社会全体で人々の欲求に合わせた生産が自動的に実現するという経済の仕組みのことです。これによって、労働などの生産資源が、人々の欲求にあわせて様々な生産部門に無駄なく配分されるというわけです。

物々交換であれば、自分の生産したものの消費者の顔が見えます。しかし、市場メカニズムにおいては、生産されたものは、モノやサービスが貨幣によって取引・交換される市場（しじょう）に出ます。そのため、消費者の顔を見ることはなく、生産物は取引されていきます。

資本主義経済は、この市場メカニズムに基づいて経済が回っているため市場経済であるともいいます。一方、社会主義の経済は、計画経済（市場ではなく、国家の財物バランスに基づいて資源配分する）です。

#### ポイント

- 資本とはお金のことである。
- 資本主義経済では、資本家が労働力を買って、それを上回る価値あるものを生産し、利潤を得ていく。
- 得た利潤を再投資しなければ、資本主義経済は停滞する。
- 資本主義経済は、需給関係によりモノやサービスが取引される市場メカニズムに立脚している。



### ◆コラム：ユダヤ人に富豪や天才が多い理由

ユダヤ人には大富豪が多いと言われます。世界の人口の0.25%しかいないユダヤ人が、ノーベル賞の20%、フィールズ賞の25%を占めています。一体、なぜでしょうか。

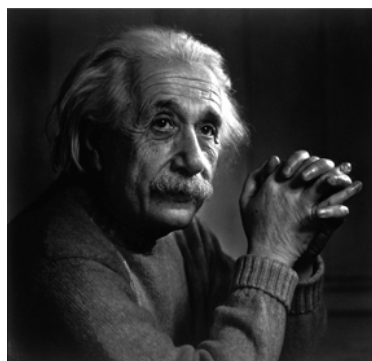
ユダヤ人は、今のイスラエルの辺りで生活をしており、イスラム教徒の進出により彼らと共生することになるわけです。イスラム教では、金利をつけた金貸し業が禁止されており、ユダヤ人が代わりに金貸し業（金融業）を営んでいました。

その後、ユダヤ人はホロコーストや中東戦争などにより迫害の歴史を追い、世界各地に散らばっていきました。特にアメリカへ移住したユダヤ人は、またもやキリスト教徒の金貸し業禁止の影響を受けて、金融業で財をなしました。長い間、ユダヤ人は財産を子供に相続できないと決められていたこともあり、財産を子孫への教育につぎ込むことにしました。

そうした歴史から、お金の教育が進んでいたこと、そして教育に力を注いでいたことから、優秀な人材が多く輩出され、学力レベルの高さに伴い収入も高い、というわけです。世界の金融、経済は、彼らが牛耳っていると言っても過言ではないくらい強大な力を持っているのです。

### ◆有名なユダヤ人

- ・ロスチャイルド家：世界最大の金融一家。彼らが世界の金融を牛耳っている。
- ・アーネスト・オッペンハイマー：世界最大ダイヤモンド企業デ・ビアス社の創業者
- ・マーカス・サミュエル：シェル石油創業者
- ・アルベルト・アインシュタイン：天才物理学者
- ・カール・マルクス：ドイツ経済学者
- ・ベンジャミン・ディズレーリ：英国元首相



### 1-3 資産と負債の違い

多くの人たちは、お金のために働きます。一生、生活のために働くことになります。  
一生お金の働かされたくなければ、お金の働いてもらう方法を知らなければいけません。

多くのお金に働かされている人は下記のような特徴があります。

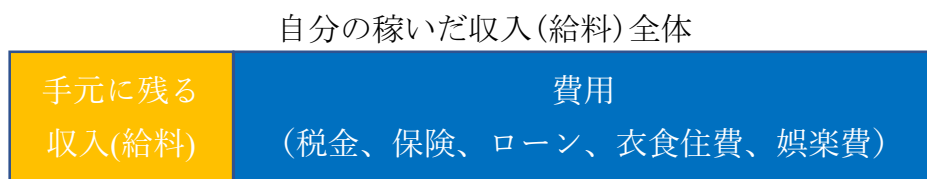
- ①毎日、一生懸命仕事をする
- ②先に社会保険や税金を引かれた（天引き）後で給料をもらう
- ③その残った給料で、その他の支払もする
- ④最後に余ったお金で、生活する（欲望のまま、お金を使う）

お給料入った  
から買い物、買  
い物とか

欲を管理することができなくなると、最後は欲で身を滅ぼします。貧乏という病気にかかった者は、負のスパイラルから抜け出すことができず、オペをしなない限り一生貧乏で居続けます。



#### ◆多くの貧乏な人のお金の流れ



多くの人が残るお金より、出て行くお金の方が多いです。費用のために働いていると言っても過言ではありません。そして、せつかく手元に残ったお金も、貯金・節約を行い、お金から嫌われ一向に資産は増えません。得たお金を資産形成のための再投資に回さなければ、資産が増えていくことはなく、ひたすらお金のため、貯金のために働くことになるわけです。

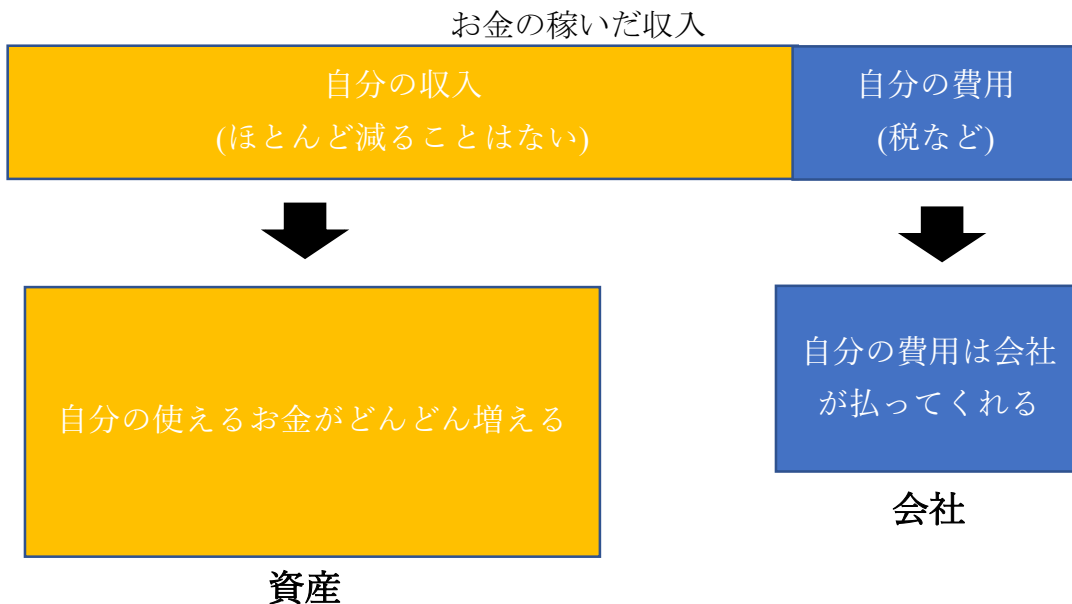


一方、お金持ちは、日々の生活のために、お金のために働きません。どうすれば、働かなくても（自分の労働力を使わずに）お金が入ってくるかを考え、自分の頭とお金を働かせます。費用の支払いも自分の収入からではなく、会社の費用から支払いをします。

お金持ちは下記のような特徴があります。

- ①頭とお金を働かせる
- ②税金を引かれる前に自分の支払を済ませる
- ③さらに、お金を増やす為にお金を使う(自らの欲望は後回し)

◆お金持ちのお金の流れ



お金持ちは、お金に働いてもらうために資産を持ちます。ここで、お金持ちが言う、資産と負債の違いをしっかりと押さえておきましょう。

資産＝持っているとお金が増えていくもの  
負債＝持っているとお金が減っていくもの

さて、上記の定義に当てはまる資産と負債の例を思いつくだけ書いてみましょう。

資産の例：

負債の例：

簿記の勉強をしたことがあれば分かるかもしれないが、よく会計学では、

「資産-負債=純資産」だと教えてくれるが、現金(収入)を生まない資産は、本当の資産ではない、という真実は教えてくれません。本当の資産とは実際に、その場において労働しなくとも入ってくる収入のことです。ここでいう資産は会計上の定義と異なるという点は注意してください。

では、お金持ちの言う資産と負債の例を挙げてみましょう。

#### ◆資産の例

- ・ **ビジネス的資産** (詳しくは後述)    ・ **家賃収入のある不動産**
- ・ **ビンテージカーや超高級車など価値の上がる希少な自動車**
- ・ **価値の上がる株式などの証券**    ・ **特許**    ・ **印税**    ・ **その他、市場価値の上がるモノ**

#### ◆負債の例

- ・ **マイホーム**

→持っているだけで固定資産税や管理費としてお金が一方的に出て行く

- ・ **マイカー**

→自動車税やメンテナンス費用、駐車場代がかかる。普通の車は売るときには、購入時よりどんと値が下がる。

- ・ **価値の上がらない株式などの証券**    ・ **その他、市場価値の下がるモノ**

よく、「マイホームは資産になります」などと言われて、ローンでマイホームやマイカーを購入する人がいますが、資産とはなりません。翌日、人に売って見たら、値段は一気に下がり、税金やローンの利息を差し引いたら借金しか残らないわけです。

例えば、30歳のサラリーマンが5,000万円のマイホームを買うとして、現金一括で購入すれば5,000万円を払えば購入できるが、定年までの30年ローンを組んだとすると、トータルで支払う額は約7,000~8,000万円にもなると言われています。あえて、ローンを組んで買ったほうが良いケースもありますが、いずれにせよ、ローンの仕組みをよく知った上で選択をするようにしましょう。

#### ポイント

- ・ **貧乏人は自分がお金のために働く、お金持ちは頭とお金を働かせる。**
- ・ **お金に働かされたくないならば、お金を働かせる資産形成方法を知る必要あり。**
- ・ **資産とは、持っているだけでお金が増えるものである。**

## 1-4 資産の種類

お金持ちの言う資産には、大きく分けて下記の5種類があります。それぞれの資産を、分散的に持つことがリスクを抑えて資産を保持する秘訣です。それぞれの資産の特徴を見ていきましょう。

### ①ビジネス的資産

### ②金融資産

### ③不動産

### ④権利的資産

### ⑤物的資産

### ①ビジネス的資産

ビジネス的資産とは、ビジネスの仕組み（事業によりお金が入ってくる仕組み）を持っていて、そこから継続的に自分に収入が入ってくるものを言います。自分が働かなくても（または少ない労働で）、事業が回るようになっている状態のことを言います。会社の創業者などがこの資産を持ちます。起業して、最初の頃は自分でも事業を回すために働きますが、事業の仕組み化ができてくると、必要な自分の労働力量は大幅に減ります。新たに社長を雇って、経営を任せ、大事な会議にだけ出たり、管理だけ行えば良いという状態にまで持っていくこともできます。

ビジネス的資産の構築方法は、ズバリ「起業」して事業を仕組み化することです。何も資産を持っていないのであれば、起業してビジネス的資産を構築することが、お金持ちになる第一歩です。まずは、ビジネス的資産が作れるような人間になるための自己投資をしましょう。

### ②金融資産

金融資産が、「資産」と言われた時に最もイメージしやすいものかと思います。金融資産には、現金や預貯金の他に、投資信託、株式や国債・社債などの有価証券があります。金融資産を構築するには、元手となる資金が必要です。資金が多ければ大きいほど増える金額も大きいですが、少ない元手では、増える金額はたかが知れています。

一握りのトレーダーは、数百万円程度の元手から、為替(FX)や株式のトレードで大きな利益を上げていきます。しかし、一般的には、しっかり0から1を生み出す力を身につけ、ビジネス的資産を構築し、そこから得られる余剰資金を金融資産への投資に回していくというのがセオリーです。



### ③不動産

マンションやビルなどを購入し、そこに入居する人や企業から家賃を得ることができ、それが資産としての不動産です。前で説明した通り、マイホームは資産としての不動産には含まれません。

不動産を購入するにも、何千万、何億円という莫大な資金が必要になってきますので、こちらもビジネス的資産である程度の資産構築ができてから、始めるべきものと言えます。



ただ、勤務年数がある程度あるサラリーマンなど、金融機関からの信用が高い人は、銀行から融資を受けて投資用不動産を購入し、毎月銀行に支払わなければいけない利息分よりも多くの額を不動産収入で得ることは可能です。不動産投資は、リスクも大きいので、しっかりとした知識を身につけてから取り組むようにしましょう。

### ④権利的資産

権利的資産には、特許や印税、ネットワークビジネス（ビジネス的資産と捉えることもある）などによる権利的収入があります。何かを発明して、特許を取れば、その技術・知恵が使われた時には、特許料が舞い込んできます。何か実績があつて本などの印刷物を出版すれば、その本が売れるごとに印税として収入が舞い込んできます。

ネットワークビジネスは、主に口コミによって商品を販売していき、それと同時に購入者を「販売員（ディストリビューター）」として起用していきます。また、その販売員は、さらに別の人を販売員として勧誘していき、「多階層（ピラミッド型）の販売員組織」を形成していきます。ある程度大きな組織（消費者の繋がり、マーケット）ができ上がると、そのマーケットから自分に継続的に収入が入ってきます。

別名で「マルチレベルマーケティング（MLM）」と呼びます。例えば、学習塾に友達を紹介して入塾すると、図書券やキャッシュバックといった形で紹介料が支払われますよね。これをシングルレベルマーケティングと呼びます。マルチレベルマーケティング（MLM）は、自分の紹介した人が紹介した人、そのまた紹介した人、の分まで、複階層（マルチレベル）までお礼に紹介料が支払われるという仕組みで、流通を起こす上で最も強力なマーケティング手法とされています。

ネットワークビジネスは初期投資も数十万円ほどと元手があまりかからず誰でも始められるビジネスではありますが、その分成功するのは一握りの人間だけです。

## ◆コラム：ネットワークビジネスとねずみ講の違い

よく、ネットワークビジネス(MLM)と聞くと、「ねずみ講だ!」「詐欺だ!」という風に言われることがあります。「ネットビジネス」という似た言葉がありますが、こちらは主にインターネットだけを使って完結するビジネスのことを指します。ネットワークビジネス(連鎖販売取引)は法的に認められているビジネス手法である一方、「ねずみ講」や「悪徳マルチ商法」は違法なビジネス手法です。その違いを知っておきましょう。

### ・ねずみ講

商品やサービスを介在しない。要は何もないところに、何らかの権利を作り、それに価値を乗せて、連鎖的に組織ができていく、無限連鎖の手法であり、違法とされています。

### ・悪徳マルチ商法

ねずみ講に対して、商品やサービスは存在するが、その質が低く、実質的に価値のないものを介在させて連鎖取引をすることになるため、こちらも違法とされています。

### ・ネットワークビジネス(MLM、マルチ商法)

金額に見合った価値のある商品やサービスを、有限連鎖(マルチレベルではあるが、無限に連鎖するわけではない)取引することであり、その商品・サービスの流通に対して報酬が支払われる仕組みです。特定商取引法で、連鎖販売取引として認められています。

特に日本では昭和時代からネットワークビジネスが普及し、強引な勧誘などからあまりいい評判を持たれていません。一方、ネットワークビジネスが生まれた本場アメリカでは、最高レベルのマーケティング手法として比較的大勢に受け入れられており、ドナルド・トランプやビル・ゲイツもネットワークビジネスの仕組みを賞賛しています。

ネットワークビジネスの中には、悪徳なものもありますので、取り組む際にはしっかり吟味する必要があるでしょう。王道はやはり、自身の人間力とビジネススキルを高め、ビジネス的資産を構築することです。

## ⑤物的資産

物的資産とは、持っているとは何価値の上がるモノ(物体)のことを指します。購入時より手放して売るときの値段の方が高いので、持っているだけで資産価値が増えることになります。時間が経つと価値が上がるモノは、希少価値が高く入手困難なものや経年変化により質が良い方向に変わるものがあります。

### ◆希少価値が高く入手困難なもの

美術品、アンティークな品物、限定フィギュア、生産台数の少ないスーパーカー、ビンテージカーなど



### ◆経年変化により質が良い方向に変わるもの

ヴィンテージワインなどの古酒

物的資産は、購入に元手の資金が必要である上、価値が上がるまでに時間がかかるほか、途中で破損するリスクも抱えるため、投資できる資金の余裕があって、趣味の延長線上で取り組むぐらいの感覚でいるといいでしょう。



### ◆コラム：お金持ちは遊びながらお金を稼ぐ!?

物的資産のところで、「ヴィンテージカー」について触れましたが、お金持ちには車好きが多いです。特に、欧米のお金持ちは、将来価値が上がると思われるヴィンテージカーを購入し、乗って動かしていないとガタがくるので、メンテナンスも兼ねてその車に乗って遊びます。そして、値上がりして売るタイミングがきたら売ってしまうといったことを普通にしています。一般人からしたら、ヴィンテージカーのコレクションをして、乗って贅沢に遊んでいるようにしか見えないのですが、実は大好きな車に乗っていることが、お金を稼ぐ、仕事になっていたりするのです。

お金持ちは、一般人からは一見お金稼ぎに見えないことでも、資産を増やすことにつなげているものです。

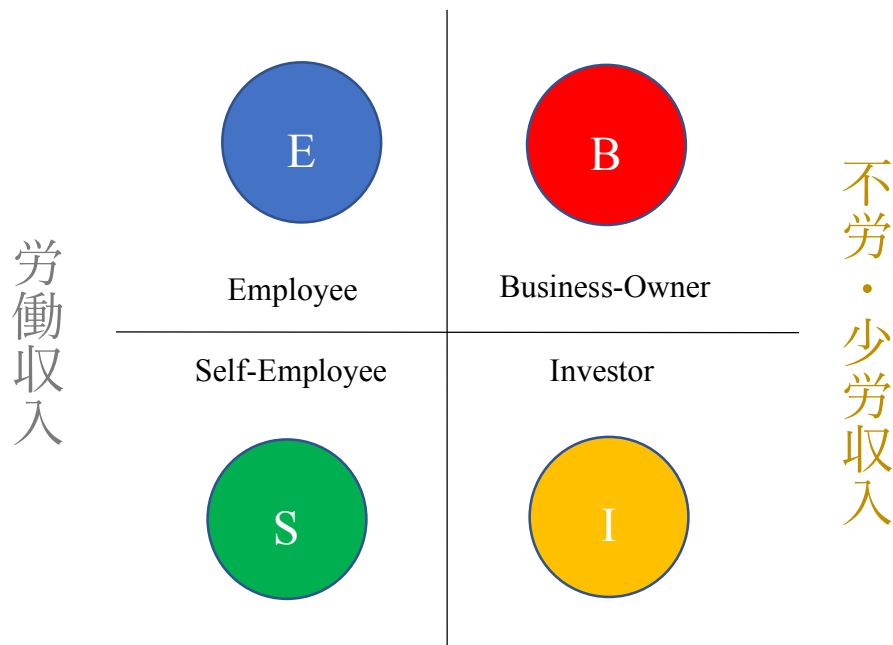
### ポイント

- ・ **まずは起業してビジネス的資産を作ることから始める。**
- ・ **余剰資金ができたら、金融資産や不動産など様々な資産に分散投資する。**
- ・ **それぞれの資産構築の元手とリスクをよく知っておくことが肝心。**

## 1-5 ESBI

ここまでで、資産を増やしていける人と、いつまでも生活のため自分の労働をお金に変える生き方をする人の違いを勉強してきました。収入が大きく開いていくのはなぜか、投資家であり、名著「金持ち父さん貧乏父さん」の著者でもあるロバート・キヨサキ氏が提唱した「ESBI」という概念を用いて理解を深めていきたいと思えます。

下の図は、「キャッシュフロークワドラント」と呼ばれており、4つのクワドラント（象限）にそれぞれ、E、S、B、Iと書かれています。これらは**収入を得るための4つのモデル**を表しています。世の中に存在する収入を得る方法はこの4つのモデルのどれかに必ず当てはまります。



- **E(Employee)** = 従業員 (サラリーマン、アルバイトなど)
- **S(Self-Business)** = 自営業者 (農家、個人店経営者、医者など)
- **B(Business-Owner)** = ビジネスオーナー (事業を仕組化した創業者など)
- **I(Investor)** = 投資家 (株式投資家、不動産オーナーなど)

それぞれの収入モデルにはどんな人が含まれるのか、どんな特徴があるのかを見ていきましょう。

### • E(Employee) = 従業員

属性：会社などに雇われて給料をもらうような収入モデルです。大手企業の正社員であっても、派遣社員、アルバイトであっても、労働時間を対価に給料をもらっている労働者は全てこのモデルに属します。

特徴：労働時間が拘束されているので、自由な時間が少なく、主導権が自分になく会社にあります。働ける時間は限られていますから、得られる収入にも限界があります。



### • S(Self-Business) = 自営業者

属性：農家や漁師、医者や弁護士などの士業、個人店の経営者、起業して間もない会社の経営者、自分で事業を行っている人が属します。

特徴：主導権を自分が握っておりどんなビジネスをするかいつ休むのかといったことを自分で決められますが、自分が働かなければ収入がないので、やはり自由な時間は少なくなります。自分の労働を収入に換えているため、E(Employee)よりは多くなり得るとしても、収入に限界があります。



### • B(Business-Owner) = ビジネスオーナー

属性：例えば、飲食店や美容院のオーナーは、基本的には現場に出て働かないわけですが、従業員を雇い事業は回っています。そうしたビジネスの仕組みを持っている人が属します。起業して、事業の仕組み化ができると、このビジネスオーナーに属することができます。



特徴：ビジネスオーナーが投資をしてビジネス基盤を作り、従業員を雇う側になり、事業を自分が働かなくても回るように仕組み化します。そのビジネスからは、権利的収入が得られる（ビジネス的資産を持てる）ので、大きな資産構築をすることができます。そして、自分が働くことはほとんどないので、自由な時間があります。サインをするにも自分の裁量なので、当然主導権は全て自分にあります。



• I (Investor) = 投資家

属性：投資家は、株、不動産、為替、債権、商品などに投資をすることで利益を得る人達のことです。基本的にはお金など、自分の労働力以外のあらゆるものの力を使って収入を得ることができる人達です。

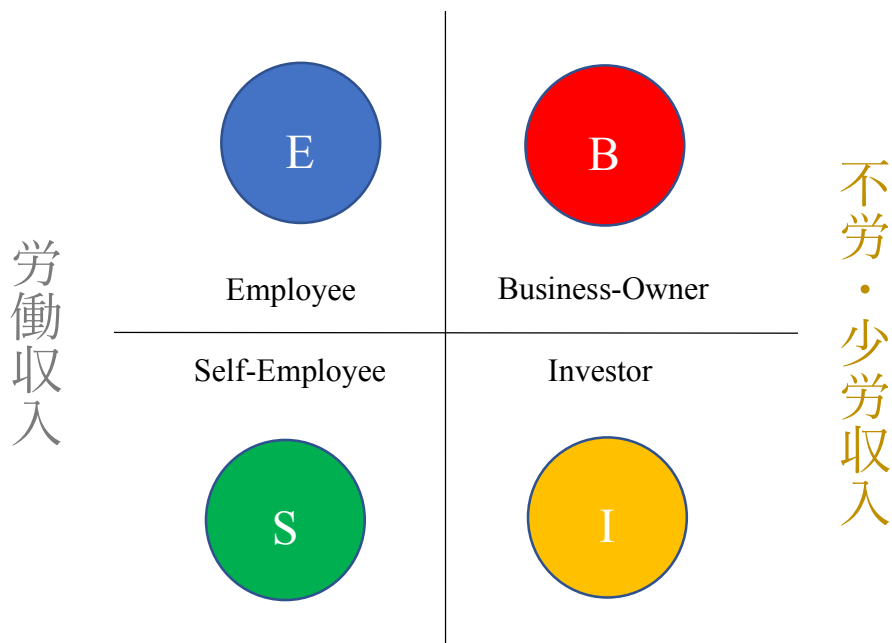


特徴：投資をすることで、その投資した事業、会社が成功し、利益が出ればその利益の配当を得ることができます。投資したビジネスに対して権利的收入を得ることができます。自分が働く必要はないので、時間が自由であるほか、時間とお金が自由で全て人生の主導権は自分にあるため、人生の選択肢が豊かになります。

〈労働収入と不労・少労収入〉

キャッシュフロークワドラントの左側 (E と S) は、自分が労働をしなければ収入が入ってこないため、「労働収入」と言えます。自由な時間が限られ、万が一自分が働けなくなったら収入は入ってこなくなります。

一方、右側 (B と I) は、自分が労働せずに（または管理など少ない労働で）権利的に収入が入ってくるため、「不労・少労収入」と言えます。収入にも限界がなく、自由な時間も多く得られます。



収入を増やし、自由な時間も豊かに欲しいのであれば、クワドラントの右側、BかIになる必要があります。もともと、家が資産家であったり親の会社を受け継ぐ予定があったりと、生まれながらにしてBかIに所属できることがわかっている方がいいですが、ほとんどの人はEの現状から資産構築をしていかなければなりません。

Eから右側のBやIになるためには、一般的に以下のような流れをたどります。

E→S→B→I

- E: まずは従業員として、生きるためのお金を稼ぐ
- S: 貯めた元手資金や人脈、スキルを活用して独立を果たす
- B: 自分の事業を仕組み化してビジネスオーナーになる
- I: **ビジネスオーナーになれば、自由に使えるお金も増えてきて、経営者仲間など有力者たちとの人脈や情報を持つことができるため、それを活用して余剰資金を投資に回し、お金に働いてもらうことができるようになります。投資は情報戦と言われており、良質な情報はそれなりの人についてくるものです。**

#### ポイント

- 収入のモデルには、ESBIの4種類がある。
- **E (Employee=従業員)** は、雇われて時間給で働く。時間もお金も自由が少ない。
- **S (Self-Employee=自営業)** は、自分で仕事を決められるが、自分の労働をお金に変えているため、時間とお金の自由があまり多くない。
- **B (Business-Owner=ビジネスオーナー)** は、自分が働かなくても事業が回っているため、権利的収入を得て、時間とお金に自由が多い。
- **I (Investor=投資家)** は、自分は働かず、お金が働いてくれるので、時間もお金も自由である。
- Eから時間とお金の自由を得るには、E→S→B→Iの流れで、収入形態を変えていかなければいけない。

## 1-6 セブンポケッツ

ここまで、資産の種類や構築方法を学んできました。しかし、その資産は失うリスクが常に伴います。やはり、経済的に安定していただきたいわけですが、社会で言われるいわゆる「安定」である、いい大学を出て、大手企業に入って、勤め上げることが、果たして、本当に経済的安定につながっているのでしょうか。かつての高度経済成長期の日本であれば、日本の経済全体が伸びていますから、大手企業に入っていれば、終身雇用でずっと務めることができ、給料も勤務年数とともに上がり、退職しても潤沢な退職金と年金がもらえました。

しかし、ここまでクラウンアーツ・ビジネススクールで学んできている皆さんなら、急激な少子高齢化やグローバル化の遅れなどを背景に、構造的に経済が衰退していく今の日本で、いわゆる「安定」が通用するわけではないことをお分かりでしょう。

では、真の経済的安定とは何なのでしょう。きっと、複数個の収入源を持つことが経済的安定につながるとは思いませんか。いい企業に就職できたとしても、収入源は1つであり、もしリストラされたり会社が倒産した場合には、収入がなくなります。これからの日本では、リストラも増えるでしょうし、大企業が倒産するケースも出てくるでしょう。

そうした時代でも、**経済的安定を維持するには、やはり複数個の収入源を持つしかないのです。**では、いくつぐらい、収入源があればいいのでしょうか。ここで、「セブンポケッツ」という考え方を紹介したいと思います。

人間は人生で大きな失敗を平均7回するというデータがあるようで、ならば安定して収入が得られるものを7つ（7つの収入を入れるポケット）持っておけばいいじゃないかという発想から、リーマンショック後のアメリカで生まれた概念です。

月曜日から日曜日まで、1日ごとに違う仕事をするという意味ではなく、**収入の性質が違うものを7つ持ちましょう、**ということです。1日ごとに違うアルバイトをしても、それは労働収入として収入源が1つあるに過ぎません。

では、どうやって7つのポケットを埋めていけばいいのでしょうか。



## ステップ1：まず自分が考えられる身近なものから作ってみる

まずは、難しく考えずに、身近にできることからポケットを作っていきます。最初から大きな収入が入ってくるものをたくさん作ろうとする必要はありません。まずは小さい収入でもポケットを作ることが大事です。

### ◆例

#### ①給与収入

会社勤務やアルバイトなど、自分の労働時間を対価に収入を得ます。これが一番思いつきやすく、初めは誰もがやっている収入の得方です。

#### ②フリマアプリやネットオークション

フリマアプリやネットオークションで、不用品を売ってみたり、または価格差があるものを見つけて転売してみたりします。

#### ③ネットビジネス

インターネットがあれば、誰でも始められるビジネスです。アフィリエイト、Web広告、物販などがあります。

#### ④講演会やセミナーの講師

何か実績が出てきて、人に教えられるスキルやノウハウがあれば、セミナー講師として登壇し、講師料や参加費を得ます。

#### ⑤投資や資産運用

FXや株式投資で収益を得る方法です。またお金を預けておけば資産を運用してくれるサービスもあります。しっかり勉強して知識をつけてからでないと、大きな損を出すリスクがあるので注意が必要です。

#### ⑥不動産収入

ある程度資金があったり、長年企業に正社員で務め、銀行からの与信が高い人は融資を受けるなどして、不動産を購入し、家賃収入を得ます。

#### ⑦印税収入

著作物（出版物や音楽）があれば、利用者が対価としてロイヤルティーを支払ってくれます。

## ⑧ビジネス収入

自分の事業を立ち上げ、仕組み化を行い、収入を得ます。

## ⑨配偶者からの援助

配偶者や親戚からの援助金も立派な収入の一つです。

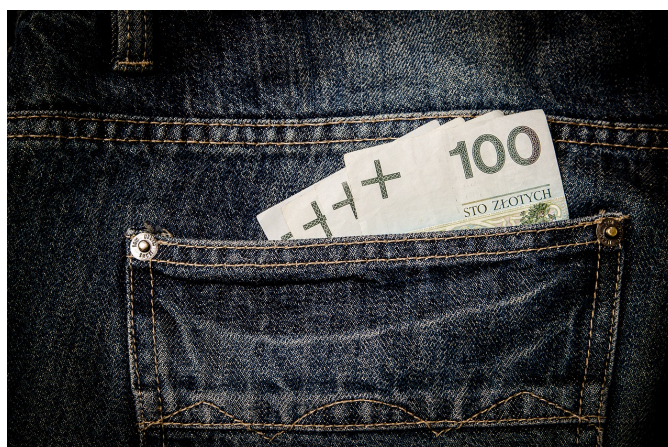
### ステップ2：ポケットの準備ができたなら、それぞれのポケットを埋めていく

7つのポケットができれば、それぞれのポケットを厚くしていくだけです。数を増やすか質を上げれば、ポケットはどんどん厚くなっていきます。いずれ、生活に必要な金額をそれぞれのポケット1つずつから得られるようになれば、経済的安定が達成できていると言ってもいいでしょう。

収入源を1つしか持たないことは、これからの時代、とても危険であると言えます。ぜひ、複数の収入源を持てるように、種を蒔いて、一つ一つ大きくすべく育てていきましょう。

#### ポイント

- いわゆるいい大学を出ていい企業に入るといふ「安定」は幻想と化した。
- 収入源を複数持つことが経済的安定につながる。
- 7つの収入源を作り、一つ一つ大きくしていくことで経済的安定を目指す。



## 第2章 金融の基礎知識

## 2-1 金融とは

資本主義経済は、金融によって成り立っています。金融とは、読んで字のごとくお金を融通するということです。つまり、余分にお金を持っている人が、お金が足りなく欲している人に渡して、**お金の貸し借りをを行い、過不足を調整するという機能**のことを言います。金融には、大別すると「**間接金融**」と「**直接金融**」の2種類があります。両者には、**誰がリスクを負担するか**、という点と**お金の出し手が投資先を選べるかどうか**という点が異なります。

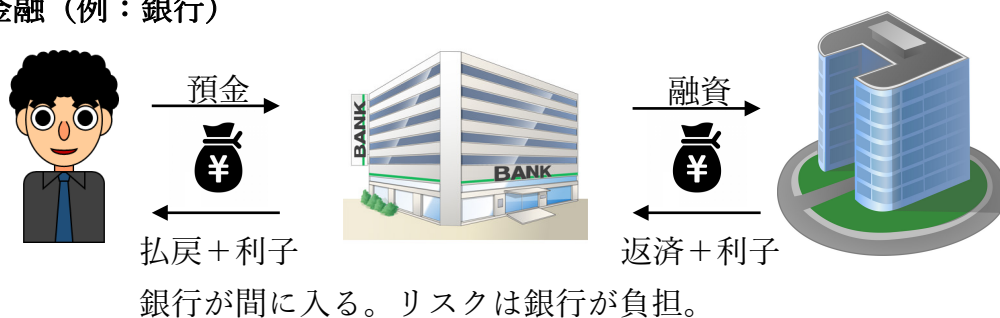
### ①間接金融

企業や国・地方公共団体（以下、略して企業とする）が銀行などを通してお金を借りる仕組みのことを間接金融と呼びます。なぜ、「間接」であるかという点、そもそも銀行のお金というのは預金者のお金であり、それを銀行の判断で企業や団体にお金を流すということは、**預金者が間接的に企業にお金を貸していることになる**からです。

### ②直接金融

借り手自らが株式や債券などを発行して資金を調達する仕組みのことを直接金融と呼びます。企業や団体が株式や債券（社債、国債）などを発行して、それを投資家にも買ってもらい、事業資金を集める方法です。**個人投資家・機関投資家から資金需要のある企業に、直接的にお金を流すことになるため直接金融**と言われます。

#### 間接金融（例：銀行）



#### 直接金融（例：証券会社）



## 2-2 銀行の仕組み

金融機関と呼ばれるものには、大きく分けて、銀行、証券会社、保険会社の3種類あります。ここでは、まず銀行の仕組みを学んでいきます。いつも利用する銀行ですが、意外と仕組みを知っている人は少ないものです。

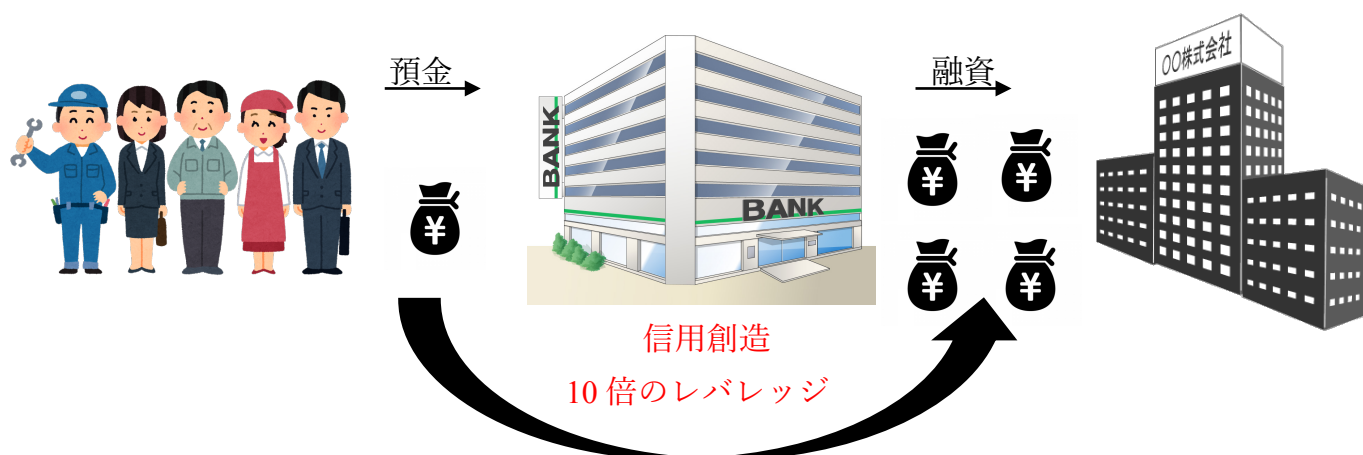
銀行の仕組みは、シンプルに説明すると、預金者からお金を集め、そのお金を企業や個人に預金利息よりも高い金利をつけて貸す（融資）ことで利益を得るというビジネスモデル（全ページ図説参照）です。

そして、預金者がATMからお金を引き出す時に、時間によっては手数料を取ります。また、他の口座に送金する際にも振込手数料を取ります。そうした手数料も利益になります。

銀行は預金者のお金を非常に安い金利(0.025%程度)で借り、非常に高い利息で貸し出します。仮に貸し出し金利が5%だとすれば、銀行が得られる金利は、 $5 - 0.025\% = 4.975\%$

結構な金利で、かなり儲かっているように見えますが、実はこの計算は間違っています。なぜなら、**銀行は預金をそのまま貸し出しているわけではない**からです。なんと、**銀行は顧客からの預金を担保に、その10倍のお金を貸し出している**のです。FXのレバレッジ（他人の資本で自己資本に対する利益率を高めること）のようなものです。

一体どこから、そのお金が出てくるのかというと、どこからも出てきません。「えっ!？」と思われるかもしれませんが、本当のことです。なぜそんなことができるかという、**信用創造という仕組みを使って、預金残高を超えて貸し出しができること**が、**銀行法によって定められている**からです。



〈信用創造とは〉

銀行は、「残高の記帳された通帳」を企業に付与して与信を与える（お金を貸す）と、貸したお金の分だけ自らの預金が増えます。貸したお金は現金で債務者に手渡されるわけではなく、借りた人の普通預金口座の残高増加（通帳の数字が増えるだけ）となって現れます。

そのため、どんどん貸していくと、貸出金と（貸し出したお金が預金になるため）預金残高は、どんどん増えていきます。他行へ振込みをすると自らの残高は減ってしまいますが、日本全体で見れば預金は増える一方です。このように、**銀行の融資により、どんどんお金が増えていくことを「信用創造」といいます。**

信用創造に何の規制もなければ、銀行の勝手でお金が無限に増えてしまい、政府のお金に対するコントロールが利かなくなってしまう。そのため、政府は「預金準備率」という制度を設け、「本当の預金に対して」日本では100倍（1%）くらいまで貸していいということにしています。しかし、実際は、BIS規制という国際規制により、銀行の資本金の12.5%までしか市民の預金を流用して投資や融資をしてはいけないとなっており、**10%前後のレバレッジで貸し出しを行っています。**

貸出資金は預金の10倍なので、単純に考えると利益も10倍になります。**あなたがお金を預ければ預けるほど、銀行の力は大きくなり、莫大な利益を得てしまう**ということなのです。

例えば、あなたが普通預金に100万円を預けていたとしましょう。銀行はその10倍の1,000万円を貸し出し、年に50万円（年利5%）儲かります。一方、お金を銀行に貸してあげたあなたには、たった250円（年利0.025%）しか利息として支払われません。そして、ATMを使っていれば出金手数料や振込手数料を取られていますから、実際は赤字です。

銀行はなんと、自分たちの稼ぎの材料になる預金をしてくれる顧客に対して、大した利息も支払わないどころか、手数料まで取って赤字にし得るといふ、なんともジャイアンのような存在に映るかもしれません。しかし、銀行があるからこそ資本主義経済の血液である「お金」が潤滑に回るわけです。

#### ポイント

- **銀行は預金の利息よりも高い金利をつけて貸し出すことで利益を得る。**
- **信用創造により預金額の10倍程度のレバレッジをつけて貸し出しができる。**